

# 世界展開力強化事業 ブラジル長期留学 第一回報告書

国際食料情報学部 国際バイオビジネス学科 3年 川村怜

## 1. はじめに

ブラジルに到着し、生活をはじめてから早くも1ヶ月が過ぎた。

見るもの聞くもの全てが新しく、感性に忙しく日々が嵐のように去っていった。

今はようやくこちらの暮らしに慣れ、落ち着いてきたところだ。

ここに第一回報告書として、これまでの生活を飾ることなくありのままに振り返っていきたい。

## 2. 大学について

私の在学しているサンパウロ大学の ESALQ は、ラテンアメリカで最難関、中でも農学部は世界トップで知られている大学である。

授業は一つ履修しているが、ポルトガル語での講義は理解するのは極めて困難だ。

はじめは、3時間20分よく分からない言葉が飛び交う中ひとり外国人がこの身をおくのはとても苦痛で孤独だった。

しかし、今ではブラジル人の親しみやすい気質に救われ、一緒に勉強に誘ってくれる友達もできた。更に、授業をサポートする学生が授業後にパワーポイントを全て英訳して送って下さるようになった。

こうして周りに支えられながらなんとかやっている。

とはいえ、毎回必ずある小テストでは問題文を和訳して時間が来てしまう上、授業中に授業内容を理解したことは一度もない。

ゆっくり焦らず今自分に出来ることをやるまでだと思う。

## 3. 日々の生活

私は大学から徒歩25分程にある2階建ての一軒家に12人で共同生活をしている。(3人部屋)皆同じ大学の学生だが、学年、学部は様々だ。もちろん、私以外は皆ブラジル人である。

寮の一日の流れは、8時から始まる1限に合わせて(ESALQの授業は一般的に1コマ2時間である。)慌ただしく朝が始まり、昼になると食事をしに寮に戻り、皆で食卓を囲み談笑して、また学校へ向かい、授業が終わると帰宅。その後各々で夕食を済ませ、昼食を作る当番は料理をし(この当番は、2人ずつ日替わりで回転する。)その間他のルームメイトは談笑したり、勉強したり、時にはパーティーに行き一日を終えるという形である。

右も左も分からない頃は、寮に昼食があることも知らず、また知らない道を歩くのが

怖くて一人では外にも行けず、スーパーも分からず、食べるものが無くてお土産をちまちま消費して飢餓と戦う日々だった。しかしルームメイトに場所を教えてもらい、今では店員とのコミュニケーションも恐れることなく（この国では日本にいるとき以上に人と話す機会が多い）一人で買い物をして、朝と夕の2食作っている。

放っておくとすぐに野菜不足の生活に陥るので（昼食に緑色があったことはまだない。）野菜を多めにとり体調管理には気をつけている。

親元を離れるのが初めてだったので、はじめは日本から持ってきた料理本を片手に試行錯誤した。だが、載っているほとんどの材料がなく参考にならないページの方がはるかに多かった。

予定を考えて先の分まで食材を買い、ひとつの料理にする。

0から何かを完成させる喜びが大きく、私はこれを通して日々の充実感や達成感を得ている。

つい1ヶ月前までは冷蔵庫を開ければ必ず何かがあり、何も言わなくても当たり前のように料理が出てきた生活だった。ここに来て、親の有り難みをひしひしと感じる。

この1ヶ月で一番大きな出来事といえば、寮での英語禁制だろう。

着いた当初は、勉強してきたとはいうものの、ほとんどポルトガル語が分からず英語でコミュニケーションをとってきた。

しかし一週間ほど経ったある日、以後私のポルトガル語向上のために英語を禁止にすると言われた。どうやら週に一度行われる寮の会議で話し合われたようだ。

あの時の衝撃は忘れることはない。つい昨日まで英語でたくさん話してくれた子が一切英語を使わなくなった。

すごくすごく辛かった。昼食で繰り広げられる会話は全く理解出来ず、確かにそこに身はあるのに、果てしなく孤独だった。

美味しい、熱い、嬉しい、些細なリアクションさえ取れなかった。聞きたいことも聞けなかった。

2、3日ほとんど人と話さず、人は話さないと死んでしまう動物なのだと分かった。

今はもう、まだまだ不十分だが最低限のことは聞き取れ、言えるようになってきた。ルームメイトにも出会ったときよりずっと話せるようになったと言われ、長めの会話が成立したときは皆で喜んでくれた。嬉しくて泣きそうになった。

正直はじめは快く思っていなかったが、今ではこの判断に感謝している。

確かに、あのままではポルトガル語を覚えることはなかっただろう。

#### 4. これから

今後はポルトガル語の学習を継続していくことはもとより、長距離バス（都市部まではバスで2時間かかる。）のチケットの買い方、乗り方、電車の乗り方、Uber という

配車サービスも覚えたので、行動範囲を広げて行きたい。

この国は、空間という概念がないように感じる。

例えば日本では、同じ空間に勉強している人がいるなら、テレビや音楽を流すことはないだろう。自分以外の全員がパーティーに参加するなら、どんなに腰が重くても行くだろう。ここでは違う。

はじめは日本と対照的な文化に戸惑ったが、今は慣れむしろ居心地良く感じる。

空間ではなく個を尊重するこの文化を活かしてこの先のものびのびやっていきたい。



ルームメイトの誕生日でピザを囲む



Mate は寮での私の名前。  
自分の物には名前を書くルール



シュラスコパーティーの様子